

📖 今月のおすすめ本 📖

『女性と図書館 ジェンダー視点から見る過去・現在・未来』

著者名 青木 玲子、赤瀬 美穂

出版年 2024

出版者 日外アソシエーツ

分類番号 010.21/ア

樋口一葉が明治24年ごろに上野の図書館に通っていたのは有名ですが、多くの男性の中で閲覧申請をすることなどが苦痛で冷や汗をかいたというエピソードもあります。そのためか、明治35年には「婦人閲覧室」が作られてきます。

このような図書館創成期には女性の図書館利用がいかに難しく、時代が下り司書という仕事に女性がどのように携わるようになっていったのか、そして戦後の自由に利用できるようになった図書館で、女性がどう利用していったかなどが書かれています。全国の男女共同参画センター・ライブラリーの成立やその意義、そこから今日に至る発展についても詳しく書かれています。

📖 図書館の話

『3万冊の本を救ったアリーヤさんの大作戦 図書館員の本当のお話』【010.22/ス】

マーク・アラン・スタマティー/作、徳永 里砂徳永 里砂/訳(2012)国書刊行会

『どうにもとまらない歌謡曲 七〇年代のジェンダー』

著者名 舌津 智之

出版年 2022

出版者 筑摩書房

分類番号 767.8/セ

ティック・トックなどで、懐かしい昭和の歌が若者の間で流行る昨今1970年代の歌は注目されています。当時の歌謡曲は現代と違い国民皆が共有していて人々の心に深く沁み込んだ一つの思想の様でした。この本は、2002年刊行本の加筆・修正本です。

「結婚」については、見合い結婚から恋愛結婚へと移り変わっていった70年代始めの様相を反映したヒット曲が生まれ、70年代後半には理想的な結婚が現実的には困難な様が語られ始めます。

この70年代はウーマン・リブの時代でもあり、結婚への理想の押しつけは「きわめて日本的な強迫」と筆者は言っています。現在、結婚の理想をテーマにした流行歌はあまりなくなりました。この様に流行歌は現代日本の最深層に通じていて、本書では「母性愛」や「年齢とジェンダー」などについても語られています。1970年代のジェンダー観を歌から紐解くディープな歌謡曲の世界を読んでみませんか。

📖 70年代を振り返ると・・・

『「アイドル」のメディア史 『明星』とヤングの70年代』

【767.8/夕】田島 悠来(2017)森話社

『平安のステキな！女性作家たち』

著者名 川村 裕子/著、早川 圭子/絵

出版年 2023

出版者 岩波書店

分類番号 910.23/カ

今から千年以上前の平安時代、男性中心の社会で、歌やエッセイ、物語などの作品を書いた女性作家たちがいました。本書では清少納言や紫式部など5人の女性作家が、自分たちの生活の中で今の私たちと同じように色々悩みながら書いた作品を通して、その人生を解説しています。

平安時代の…というとなんか難しく感じるかもしれませんが、植物に手紙を結びつける「文付枝」を「LINE スタンプみたい」と説明したり、作家それぞれの呼称では藤原道綱母を「道綱ママ」、清少納言を「せいちゃん」と呼び、親しみやすくしています。「物語の沼にハマるさらちゃん」(更科日記を書いた菅原孝標女)など楽しいですね。

その時代について5つのコラムや、「平安女子のライフ・デザイン」という解説もあります。家庭かキャリアかなど、ライフ・スタイルの中で現実との溝に思い悩む女性の姿は昔も今も変わりません。本書はジュニア向けですが、大人が手にとっても面白いですのでぜひどうぞ。

📖 平安時代について

『平安貴族サバイバル』

【210.36/キ】木村朗子、芦野公平(2022)笠間書院